

第4段階 ガリラヤの大宣教

ガリラヤにおけるイエスの宣教の始まり

2. イエスはただ一言で二度目の奇跡を起こす

デイリージーザスニュース #050

ベーステキスト: ヨハネ4.46-54

46 イエスは、水をぶどう酒に変えたガリラヤのカナに再び来られた。そこには、ある王室の役人がいて、その息子はカペナウムで病気になって寝ていた。47 この男は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのもとに行き、死に瀕している息子を癒して下さるよう懇願した。

48 イエスはこう言われました。 **「あなた方はみな、しるしと不思議を見なければ、決して信じないのです。」**

49 王の役人は言った。「殿下、私の子供が死ぬ前に、今すぐ下って来てください。」

50 **“行く、”**イエスは彼に命じた。 **「あなたの息子は豊かな人生を送るでしょう。」** その人はイエスが語った言葉を信じて、家への旅に出発した。

51 彼がまだ道中だったとき、召使たちが彼に会い、息子が生きているという知らせを伝えた。52 息子がいつ良くなったのか尋ねると、医者「昨日の午後1時に熱が下がりました」と答えた。

53 そのとき、父親は、ちょうどイエスが **「あなたの息子は豊かな命を得るでしょう」と**言われた時だと気づきました。それで、父親も家族も皆信じました。

54 これはイエスがユダヤからガリラヤに来て行われた二番目のしるしでした。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤのカナ
タイムライン	西暦30年8月下旬（第7月）
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	A. ガリラヤにおけるイエスの宣教の始まり

第4段階 ガリラヤの大宣教

タイトル	2. イエスはただ一言で二度目の奇跡を起こす
------	------------------------

コメント：

の宣教の始まりを描写する 6 つの DJN 朗読のうちの 2 番目です。ヨハネは、ガリラヤの人々がイエスを温かく迎えたのは、約 5 か月前の過越祭でイエスが行った奇跡について聞いていた (そして、その多くがそれを見ていた) ためだとすでに述べています (JN 4.45)。これは、イエスが過越祭の後の 4 か月間ユダヤで過ごした間、そこで定期的に奇跡を行っていなかったことを示しています (もしそうしていたら、ガリラヤでの宣教のときのように、奇跡のニュースはパレスチナ中にすぐに広まっていたでしょう)。

今日の朗読は、福音書に記録されているイエスの 2 番目の奇跡を取り上げています。福音書の筆者は、イエスが行った 35 の特定の奇跡を記録しています。私たちは、DAILY JESUS NEWS を通じてこれらの奇跡に番号を付け、それぞれの奇跡を通してイエスが教えた独自の教訓を学びます。

イエスの2番目の奇跡には3つの特徴があります。まず、イエスは20マイルほど離れたところから、ただ一言で死の床にある少年を癒しました。これは非常に珍しいことでした。ほとんどの場合、イエスは奇跡を起こす際に、関係する人々と直接接触し、しばしば触れながら奇跡を起こしました。

福音書には、イエスが遠く離れた場所で、ただ言葉を発するだけで奇跡的に治癒を行った例が 3 つあります。そのうちの 2 つの奇跡 (シリアとカペナウム) は、同じ市内で起こったもので、おそらくイエスが言葉を発した場所から 1 マイル以内の距離でした。この場合、20 マイルというのはかなりの距離で、少なくとも半日の旅程に相当します。そして、それはイエスが遠く離れた場所から発した言葉の瞬間に起こった即時の治癒でした。これは、神の子としてのイエスの神聖な力と権威の深い実証でした。

2 番目に目立つのは、イエスが治癒を宣言する際の言葉の選択です。イエスが **「あなたの息子は生きる」と言ったとき**、イエスは最高の命の質を表す言葉を使いました。これはヨハネの福音書で神自身の命の質を表す言葉として使われている言葉で、永遠に続くものです。このため、私はこのフレーズを **「あなたの息子は豊かな命を得る」と翻訳しました**。ギリシャ語のフレーズは、物語の中で強調するために 2 回繰り返されています。

イエスは、少年が単に生物学的な生命を取り戻すだけではないということを伝えていました。主は、この奇跡を与えることで彼の栄光が明らかになり、家族の全員が彼を信じ、永遠の命、つまり彼が話していた「豊かな」命を受け取ることを知っていました。これは啓示の奇跡でした。なぜなら、それは家族全員に永遠の命と栄光をもたらしたからです。これは、ヨハネの福音書にある 7 つのしるしの奇跡と、4 つの福音書にある 35 の奇跡の目的の一部です。それらは、永遠の命を与えるイエスへの信仰につながるはずです。

この短い物語で際立っている3つ目の点は、救いに至る信仰の本質についての教訓です。イエスはこの絶望した父親の信仰を試しました。 **「あなた方は...決して信じないでしょう...」** というイエスの **発言**で、イエスは父親を、自分の「意志」、つまりイエスを信じないという選択 (決して「信じないでしょう」) によってイエスを拒絶する人々 (「あなた方は」) のグループに含めました。一見

第4段階 ガリラヤの大宣教

すると、人が深刻な困窮を抱えてイエスのもとに来たときにイエスがそのようなことを言うのは冷淡に思えますが、これは実際には、その男性が応答することによって真の信仰に入る機会を与えることを意図していました。

「あなたたちは奇跡や不思議を見なければ、決して信じないだろう。」 イエスは、単なる奇跡の力よりも信仰のより強い基盤があることを最もよくご存知です。しかし、奇跡を起こす信仰こそが信仰の最大の表現であると考えている人が多いようです。イエスの教えをすべて学ぶと、イエスが特にそうではないことを教えていたことがわかります。

神の奇跡的な力は確かに真実であり、私たちはそれを信じるべきです。実際、イエスは私たちが祈るときに神の奇跡的な力を期待するように教えました。なぜなら、イエスはこう言ったからです。

「できる」なら！信じ続ける人には、すべてのことが可能です。」 マタイ 9:23 神の無限の力を信じることは良いことであり、必要なことですが、神に喜ばれる信仰の根拠は、それだけではありません。

イエスは宣教活動中、ただ奇跡を行うのを見たいという人々の願望と、単に奇跡に基づいた信仰を叱責しました。**「邪悪で不道德な時代は、しるしを求めます。しかし、預言者ヨナのしるし以外には、それは与えられません。」** マタイ 12:39 イエスは、複数のしるしや不思議を見たいという人々の願望に立ち向かいましたが、真の信仰の基盤として、決定的なしるしを約束しました。それは「ヨナのしるし」です。これは、聖書に記されているように、イエスの死、復活、昇天、聖霊の注ぎという包括的な「しるし」を指しています。

イエスの宣教活動におけるすべての「しるし奇跡」（数千とは言わないまでも、少なくとも数百は行われた）は、すべてのしるしの中のしるし、すなわち、イエスが私たちを救うためになさった完璧な働きを示すためのものでした。この「しるし」は、宇宙の歴史における他のどんな出来事よりも、さらには創造を含めて、神の包括的な性質と性格を明らかにしています。これが信仰の確かな基盤です。

神は歴史を通じて、人類全体にご自身を現すために非常に多くのことをなさってきましたが、私たち人間と同じ姿になり、私たちを私たち自身から救い、神のようになるために、私たちが神に対して犯すことのできるあらゆる悪、犯罪者としての十字架の死という不名誉な屈辱さえも受けたという栄光と力の前では、それらはすべて色あせてしまいます。神を喜ばせる信仰は、究極のしるしで現された神の善良さ、恵み、愛という神の性格を把握します。それらの出来事で現された神を信じることは、神がこれまで生きてきたすべての人に求めていることであり、カナでイエスのもとに来た絶望した父親の差し迫った切実な願いの中でイエスが求めていたことなのです。

さらに、この奇跡は、信じるということは、この父親がしたように**「イエスの言葉をそのまま信じる」ことだということを私たちに示しています。** イエスが豊かな命を与える癒しを約束したとき、絶望した父親が頼りにできるのはイエスの約束だけでした。彼はそれを額面通りに受け止め、立ち去りました。これが信仰の歩みの始まりでした。息子の状態を知るまで半日かかりました。彼はイエスの約束だけを頼りに道を歩かなければなりませんでしたが、彼はそうしました。

第4段階 ガリラヤの大宣教

それから、使者が到着したとき、彼は息子がすでに癒されていたことを知りました。イエスがそれを宣言したまさにその瞬間でした。彼は実際にすでに与えられた何かを信じて何時間も歩き続けていたのです。

すべての信仰はそのようなものです。それはイエスの言葉に基づいています。イエスが約束したことはすべて、イエスによってすでに実際に成し遂げられています。イエスが約束したことの成就を実際に経験するまでには、イエスの約束を信じて歩む時間が必要です。

時には、その成就を経験するまでの「信仰の歩み」は半日であることもあります。半年かもしれません。半生かもしれません。イエスの御言葉を受け入れるということは、信仰をもって歩み続ける間、タイミングをイエスに委ねるということです。さらに、成就を経験すると、それが想像していたものよりはるかに素晴らしいものであることにいつも気づきます。家族全員が永遠の命の贈り物を受けることは、死の床で一人の少年が健康を取り戻したというだけのことよりはるかに素晴らしいことです...それがどれほど素晴らしいことでも。

応用：

私たちの心を知っているイエスは、私たちを非難したり裁いたりするために私たちの不信仰や信仰の葛藤を探ることはしません。イエスは私たちの信仰を強めるために私たちの信仰を試します。私たちが不信仰や信仰の葛藤に直面しても、恐れることはありません。イエスは、神への真の信仰の源であり、強め、支えてくださる方です。不信仰と葛藤することで、私たちはより深い信仰へと進むことができます。

息子の治癒を切実に望んでイエスのもとに来たもう一人の父親は、こう言いました。 **「私は信じています。どうか私の不信仰を助けてください。」** マタイ 9:24 イエスは、この奇跡で父親を試すことが彼の信仰を前進させることになるを知っていました。イエスは、同じことを成し遂げるために、私たちの信仰を試すあらゆる方法を用いています。

信仰とは、イエスの約束を成就する旅路を歩みながら、イエスの言葉をそのまま受け入れることです。イエスはすでに約束を成就されましたが、私たちがそれを経験するのはまだ不完全です。ですから、私たちは信仰をもって歩むのです。

イエスはあなたに、今日信仰によって受け入れ、それに向かって歩み始める必要があると約束されましたか。

過去に神があなたに約束したことで、あなたが歩むのをやめてしまったものはありますか？

ただもう一度、神の御言葉を受け入れ、以前と同じように歩き始めてください。信仰によってそこに向かって歩き続けるなら、完全な充足感を体験するその瞬間が、きっとあなたを待っています。